

前文案の共有・まとめ

各グループの個性あふれる前文案ができましたが、共通するキーワード、内容も多くありました。

Nice keyword!

- 家康と秀吉がかつて戦った
- ほとぎの里
- 挑戦する
- 対話を繰り返す
- 長久手人(ながくてびと)
- 循環型社会
- 懐の深いコミュニティー
- プロセスを大事にするまちづくり
- 地消地産
- 笑顔であいさつ
- my townからour own

common word!

- 歴史・伝統・文化
- 自然、田園風景、里山
- リコモ
- 若いまち
- 子ども
- 人口増加
- 新旧住民
- つながりが希薄
- 市民が主体、主役、主人公

前文ライティングチーム発足!

5名の有志(下記)で、5つの案をひとつにとりまとめていきます!

リーダー:TAKU-SAN(大庭さん、自治KEN副所長)
としお君(中村さん、自治KEN所長)、ねねパパ(葛谷さん、自治KEN副所長)、りょうさん(加藤さん)、しのぶさん(佐藤さん)

3月の自治KENで
一緒に確認しましょう!



参加者アンケートから

《いい前文、条例ができそう!》

- 素晴らしいメンバーに囲まれ良い前文ができた。
- それぞれのグループ、印象に残る、響く、前文キーワードがあったと思います。すごくいいものになりそうで期待大です。

《みんなでつくるプロセスについて》

- 皆で一体となって作り上げることは素晴らしい。
- この2時間あまりの間に、何も無いところから粗削りながら文章ができあがったことに感動しました。
- 皆で同じ目標に向かって進むこと、素晴らしいことです。

《言葉や表現》

- 同じような想いなのに違う言葉を使うだけで、伝わる雰囲気が変わりました。
- きっとみんな似たようなことを考えているとは思いますが、言葉にするとこんなにも個性が出るのかと驚きました。言葉でつむぐことの難しさとおもしろさを発見しました。

《その他》

- 「条例づくり」をしていると感じられた。
- 市民が親しみを持てる、わかりやすい言葉で、条例ができればいいなと思った。

次回の自治KEN

2017. 1. 17(火)

19:00~21:30

西小校区共生ステーション

条例に盛り込む項目についての意見等の中で、議論が必要な点(論点)を確認しながら、考え方を整理します。

作成/長久手市市長公室 経営企画課
発行日/平成29年1月17日
問合せ/経営企画課 0561-56-0600(直通)



News 06
2017. 1



2016. 12. 20(火)

19:00~21:30 参加者33名
西小校区共生ステーション

長久手市では、「地域のことを地域で考え地域で実践する」自治の取組が活発になることを目指し、市民と職員が一緒になって、まちづくりの基本的なルールとなる(仮称)自治基本条例の具体的な検討を進めています。

今回は、今まで考えてきた、まちの将来像や、条例の意義・役割などを踏まえて、前文に盛り込みたいキーワードから、グループごとに、みんなでひとつの前文案をつくりました。

プログラム

- 19:00 はじめに
- 19:05 前回のふりかえり
- 19:15 班分け・ときほぐし
- 19:30 グループワーク1
「前文に盛り込みたいキーワードは？」
- 20:20 休憩
- 20:30 グループワーク2
「グループでひとつの前文案をつくろう」
- 21:10 発表・ふりかえりとまとめ
- 21:20 おわりに

グループごとに、5つの前文案ができました！

A 私たちの住む長久手市は、家康と秀吉がかつて戦った歴史のある町です。そんな伝統を受け継いだ「お祭り」や「ほとぎの里から出土したお宝」があるんです！日本一若く活気のあるまちになった要因として大学が多いことや緑と都心が融合している魅力的なところが挙げられます！

住みよさランキング2位に表されるように、人口増加が著しい長久手市は、地域のつながりが希薄になるとともに、行政中心では立ちゆかなくなる時代を迎えています。

市民同士で助け合いのできるまち、若い女性が中心となるまち、若者が住みたいまち、市民が主役のまちを進めます。

長久手市民の一員として、心豊かで自然豊かな街づくりを実現するために、市民と市職員が協働することにより、長久手市の発展に努めます！！

自然を守り、役割と責任を自覚し、子どもと老人にやさしい、市民主体のまちづくりを目指します。

良好な環境保全のため、清潔な街づくりを目指します。

B 私たちは、まちづくりに当たり、市民を主役とする新しい自治の確立を目指し、長久手人としての誇りを胸に、最高規範としてここに自治基本条例を制定します。

西に名古屋、北に焼き物の街瀬戸、南に工業の街、東に世界の自動車工業地帯を控えた全国有数のベッドタウンの街それが長久手。中心を貫くグリーンロード、リニモは真にこれからの未来を象徴している。伝統と文化を誇れる街。それも長久手なのだ！自然と豊さの調和。そんな街づくりに市民全員で参加しよう！

私たちのまちは、豊かになり、住みやすくなるにつれて人口が増加しました。そのため地域のつながりが不足し、お隣さんの顔も分からない現状です。

私たち長久手人は、恵まれた自然を大切に、豊かな循環型社会を目指します。私たち長久手人は、市民が主体となって行動することに誇りを持ちます。私たち長久手人は、人と人との繋がりを重んじ、多様性を尊重します。私たち長久手人は、自助・共助を忘れず災害・犯罪に備えます。私たち長久手人は、子どもを大切に、彼らが成長して住みたい街になるよう努めます。

全員が個々に役割を持ち、自ら行動します。私たちは、その行動に責任を持ちます。

C 世界の人々が集った万国博覧会や、いにしへの伝統文化を継承する警固まつりなど挑戦する心と歴史を大切にするまちであります。緑豊かな大地には、数多くの学び舎がそびえ、みんなの夢を実現できるまちであります。日本の大動脈である東名高速道路、先端技術のリニモなどみんなの暮らしを豊かにする交通網がはりめぐらされています。

市民の多様性を認め合い、個人が尊重されなければならない時代。殊更まちづくりでは市民が自ら積極的に参加し、持続可能な安心安全なまちをあらゆる世代が連携してつくりあげていく必要があります。

市民が主役で市に関わる様々な市民や団体が協働してこれからのまちづくりに挑戦します。長久手の特徴である新旧住民も手を取り合いまちづくりをしていきます。子ども達も、まちに愛着を持ち、長久手の歴史や文化を受け継ぎ、これからの未来に向けて住み続けたいまちづくりをつないでいきます。

市民の一人一人が主役となるまち・自治組織づくりのために、自分たちのまちは自分たちでつくりあげるまちをめざして、情報交換のための対話、対等な関係を継続するために（子ども－大人・行政－市民・男－女・子ども－高齢者）関係と互いの意見や苦情をくみ取られる仕組みづくり、そして子ども・子育て世代・高齢者にとって住み続けたいまち・安心安全なまち・住みたくするまち。

長久手市とつながり暮らす、わたしたちは、その時代その時代で”対話”を繰り返す勇気を抱き、いつまでも語り継がれる「長久手自治基本条例」を制定します。

D わたしたちのまち長久手市は、東西に緑豊かな森や田園風景が広がり、中央には歴史的に有名な長久手古戦場もあります。また、長久手を源流とする香流川を有し、四季折々の自然を楽しませてくれます。

現在の長久手市は、若い世代が移り住み、人口増加が進んでいます。しかし、近所付き合いが少なく、世代を超えたつながりやコミュニケーションが希薄となっています。

長久手市に住む私たち一人ひとりがまちに愛着を持ち、ともに関わりたい、支え合うことで「私たちのまち（my town）」を「私たちのまち（our town）」へ変えていきたい。そして、その理念が若い世代にも浸透し、長久手スタンダードとして根付いてほしい。

こんにちは！ハロー！老若男女みんなが笑顔であいさつ。それがこのまちの基本でありたい。そして、それがコミュニケーションの第一歩。私たちはコミュニケーションをいとわないことを目指す。たとえ時間がかかっても回り道でも最後まで対話を重ねる。それが私たちの望み、目標とする。市民全員参加による自治のカタチである。

よって我々長久手市民は、いまこそ未来に眼を向けるとともに、未来に対する責任を果たすべきときである。このため、本条例を制定し、市民、行政一体となって、この責を果たしていくものとする。

E わたしたちのまち長久手は、東部にはのどかな田園風景とゆたかな里山が広がり、西部には利便性の高い商業施設や多くの人々が住む移住地があり、豊かな自然と便利な都市をつなぐ乗り物としてリニモが街の中心を走っています。狭い面積ながら自然と都市とが融合する、ほかに類を見ない特性をもった街です。

人々が住みやすいとされる長久手市は、国内の人口が減少する中で、人口が増え続け、全国で最も平均年齢の若いまちとなっています。里山が残る一方で、リニモをはじめとした地域交通や商業施設の開発が進んでいる。〇〇の歴史ある町を背景に、大学や研究所の知の集積がすすんでいる。古くから住んでいる旧住民と新しく移り住んだ住民、里山と住宅地、古くからある歴史と知と、新しく生まれる知がコンパクトに詰まった都市と自然が融合するまちが長久手市です。

古くから住む人と新たに住み始めた人々が混ざり合うなかで、まちのつながりが希薄となっています。

「一人一人が主人公」とであるという自覚を持ち、顔の見える関係性をつくる様々な取組を通じて、市民一人ひとりに役割と居場所がある、懐の深いコミュニティをつくりたい。子ども達が生き生きと輝き、笑顔があふれ、シニアが活躍するまちづくりをめざします。

小学校区単位のまちづくり協議会が中心となって、プロセスを大事にするまちづくりを推進します。また、地域で消費するのは、地域でつくる「地消地産」の考えを元に、何事にも挑戦します。

一人ひとりに役割と居場所がある仕組みをつくりたい！

囲み色の凡例

■ まちの成り立ちや特性

■ 条例制定の時代背景

■ 目指すべきまち・自治の姿、進むべきまち・自治の方向性

■ 理想とするまち・自治の姿を実現する手段として必要な事項・姿勢

■ 条例制定の目的・理由や決意宣言

■ その他



グループでひとつの「前文案」をつくりあげるために、まずは、盛り込みたいキーワードを整理して、凡例にある項目ごとに、1人もしくは2人で書いて、全部を合体させたよ！

言葉ひとつで、わかりやすさや、印象が変わってくるね。

